

★幼稚園の教育目標	○元気もりもり ○友だちいっぱい ○やる気まんまん	★重点計画の概要
-----------	---------------------------	----------

★目指す幼稚園像（ビジョン）	○自分の思いを素直に表し、いろいろなことに意欲的に取り組む子供 ○友達との関わりを楽しみ、共に生活したり遊んだりすることを楽しむ子供 ○環境（ひと・もの・こと）に関わり、感じ、考えたことを主体的に表現する子供 ○遊びを通して幼児が学びの芽を培う幼稚園 ○子供がそれぞれの発達や特性を認め合い、共に育つ幼稚園 ○子育ての悩みや喜びを共有し、保護者が安心して子育てを楽しめる幼稚園 ○教職員がそれぞれのもち味をいかし、互いに学び合う幼稚園 ○幼児一人一人に寄り添い、幼児理解に努め、保育の資質向上に努める教師 ○幼児、保護者から信頼される教師 ○それぞれが自分の役割を理解して指導や支援に努め、意見を交わし合いながら協同していく教師 ○保護者、保育園、幼稚園、小学校、地域とよりよい連携を構築していく教師	子供たちが作る学校プロジェクト「いっしょに遊ぼう！みんな友だち！」プロジェクト 設定理由・園児数の減少により保育の活動内容で経験が難しいものを、園内の縦割り保育や同年齢のいる近隣施設と協同した保育の充実を図ることで、子供たちの豊かな経験を保障するため。 内容・自分を受け入れてもらったり友達を受け入れたりをしながら、園内での友達関係(同年齢、異年齢)を築いていく保育活動の実施・近隣施設(あさひがおか保育園、第二幼稚園)との交流から、地域の同年齢の友達存在を知り、親しみを抱いていけるように連続性をもった活動を実施
----------------	--	--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準	
				取組指標	成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	生きる力の基礎となる知識や技能を活用するために思考力・判断力・表現力を高める	自分たちの生活がより広がるように、考えたり工夫したり挑戦したりなどの経験をしながら、興味・関心をもって活動に取り組む。	子供が自分の好きなことや得意なことを活かしながら、目的に向かって仲間と協力して取り組む活動を計画的に取り入れる。	4 子供が自分の力を活かしながら取り決めるような活動の指導を計画的に行うことが90%できた。	4 自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が80%いた。
				3 子供が自分の力を活かしながら取り決めるような活動の指導を計画的に行うことが80%できた。	3 自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が70%いた。
				2 子供が自分の力を活かしながら取り決めるような活動の指導を計画的に行うことが70%できた。	2 自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が60%いた。
				1 子供が自分の力を活かしながら取り決めるような活動の指導を計画的に行うことが70%未満だった。	1 自分の力を発揮しながら活動に取り組んだ子供が60%未満だった。
	”いのち”を大切にしようとする意識を高める	”いのち”や環境を守るために自分のできることを知り、必要な行動を実行・継続する。	小動物・植物の世話を通して、命をつなく体験を行う。野菜くずを生かした土づくりを通じてSDGsに関わる活動を行う。	4 ”いのち”や環境に関わる活動計画を90パーセント以上実施することができた。	4 意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が90%いた。
				3 ”いのち”や環境に関わる活動計画を80パーセント以上実施することができた。	3 意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が80%いた。
				2 ”いのち”や環境に関わる活動計画を70パーセント以上実施することができた。	2 意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が70%いた。
				1 ”いのち”や環境に関わる活動計画を70パーセント未満しか実施できなかった。	1 意味を理解し、進んで活動に参加したり行動したりした子供が70%未満だった。
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	一人一人のニーズに応じた教育環境の充実を図る	子供たち一人一人が個性を発揮する喜びや、友達と一緒に生活する喜びを感じる。	子供の発達の特性や個性など、実態の把握に努めるとともに、言動や内面、心の動きについて、全職員で意見交換・情報交換を行うことで幼児理解を深め、指導体制を充実させる。	4 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に3回以上行った。	4 自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が80%いた。
				3 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に3回行った。	3 自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が70%いた。
				2 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に2回行った。	2 自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が60%いた。
				1 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に1回行った。	1 自分らしく思いを表し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりする子供が60%未満だった。
社会と未来に開き、みんなで作る	地域の方や保護者を活用した体験の場を通して、多様な立場の人の存在を知り、関わりかたを学ぶ。	地域の方や保護者の協力を得た多様な体験の中で、喜びや感謝の気持ちを通して、多様な人との関わり方を知る。	子供が喜びや感謝の気持ちを持ち、進んで取り組むことができるような活動を、地域の方や保護者と協同して計画する。	4 子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたい活動の計画をすべて行うことができた。	4 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が80%いた。
				3 子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたい活動の90%を行った。	3 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が70%いた。
				2 子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたい活動の80%を行った。	2 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が60%だった。
				1 子供が喜びや感謝の気持ちを表しながら、進んで取り組みたい活動は80%未満だった。	1 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表した子供が60%未満だった。
	近隣の施設や同年代の子供達が共に過ごしやすい場作りをする。	年代の近い子供たちと遊びや活動に取り組みながら、共に過ごす心地よさを感じる。	縦割り保育、幼稚園としての活動、二幼交流を通じて、人との関わり方を知ったり、人に関わる楽しさを感じたりしながら関係性を築いていけるような活動を計画的に行う。	4 交流施設の職員と共に、子供たちが一緒に楽しみながら活動できるような指導を計画通りに行うことができた。	4 いろいろな友達とのかかわりを楽しみながら活動に取り組んだ子供が80%だった。
				3 交流施設の職員と共に、子供たちが一緒に楽しみながら活動できるような指導を計画の90%行うことができた。	3 いろいろな友達とのかかわりを楽しみながら活動に取り組んだ子供が70%だった。
				2 交流施設の職員と共に、子供たちが一緒に楽しみながら活動できるような指導を計画の80%行うことができた。	2 いろいろな友達とのかかわりを楽しみながら活動に取り組んだ子供が60%だった。
				1 交流施設の職員と共に、子供たちが一緒に楽しみながら活動できるような指導を計画の80%未満しか行えなかった。	1 いろいろな友達とのかかわりを楽しみながら活動に取り組んだ子供が60%未満だった。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。